

令和2年度前学期 授業評価アンケート結果のまとめ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、本学期の授業は当初すべてオンライン、6月4日（木）から一部の実験・実習系科目のみ対面で実施された。それにともない、授業評価アンケートの実施方法も、授業開始時に事務職員が教室で解答用紙を配布・回収する方法から、Web アンケート形式に変更された。これによって、従来は原則として1教員1科目・クラスを対象に第13週または14週に実施していたものが、全授業を対象として最終授業日または授業終了後におこなうことになった。

1. 実施方法

(ア) 評価対象は全授業。

(イ) Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に対して回答を要請する。

2. アンケートの内容

(ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ10：5：0の10点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100点満点）とする。なお、項目1-1と1-6はオンライン授業との整合性をとるため、昨年度までのものから変更されている。

(イ) 設問3：授業で身に付いた力。DPに示された6つの力に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。

(ウ) 設問4：履修の動機および1回の授業あたりの学修時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。学修時間については、オンデマンド型授業も実施されたことにともない、授業外学修時間ではなく、授業1回あたりの総学修時間を回答するよう変更した。

3. 解析結果：履修登録人数15名以上、回答数10名以上のもののみを対象とした。履修登録者を分母とした回答率は79%。

(ア) 設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて図1に示した。昨年度および一昨年度の結果と比較してみると、予習・復習指示の評価が高くなった一方で、学生の反応確認の評価がやや下がっていて、オンライン授業の影響が出ているものと考えられる。オンライン対応で新たに設定した「学生同士の意見共有の機会」については、残念ながら低めの評価となっている。

(イ) 図2には、オンラインで実施された講義・演習・共通基盤科目の総合点分布を示した。昨年度とグラフの形を比較すると、80点台が減少し70点台が増えていることが見て取れる。これについては、①アンケート対象となる授業の数が増えた、②設問が2つ変更された、③オンライン授業の影響、の3つの要因が考えられる。今後、授業が対面に戻った際にも同様のWebアンケートで授業評価をおこなうことにな

るので、その結果と比較することで、どの要因が大きく影響したかの考察ができるかもしれない。

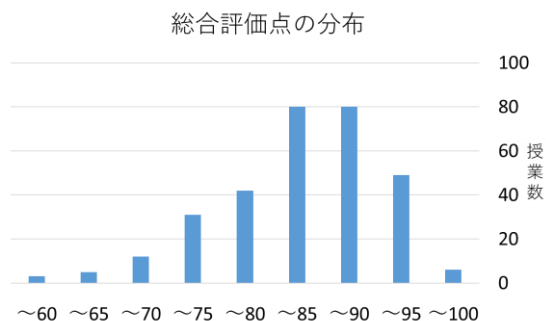
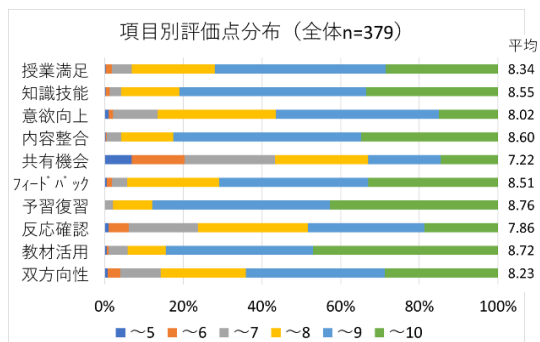


図1 項目別評価点の分布 (全体)

図2 総合評価点の分布 (講義・演習)

(ウ) 図3には、授業1回あたりの学修時間を、学期を通してオンラインで実施された講義等と共通基盤WSについて、それぞれ示した。この結果からは、質問の意図が学生に十分伝わっておらず、特に同時双方向でおこなわれた授業の場合、授業時間+授業外学修時間を正しく選択することができていない回答が少なからずあるものと思われる。

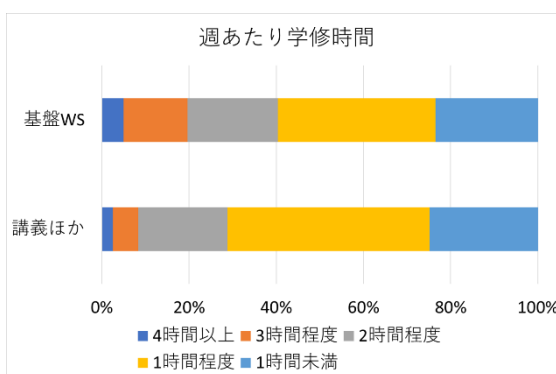


図3 授業毎の1回あたり学修時間

(エ) 図4には、身に付いた力6項目の選択率を、学期を通してオンラインで実施された講義等と共通基盤WSについて、それぞれ示した。共通基盤WSとそれ以外で結果に大きな差があるところは、これまでと同様である。個々に昨年度と比較したときには、繋げる力の選択率の減少が明らかで、特に共通基盤WSでその傾向が顕著となった。また、受け取る力の選択率は共通基盤WSで減少した一方で、講義ほかではやや増加していた。これらの違いについては、オンライン授業の影響が大きいものと考えられる。

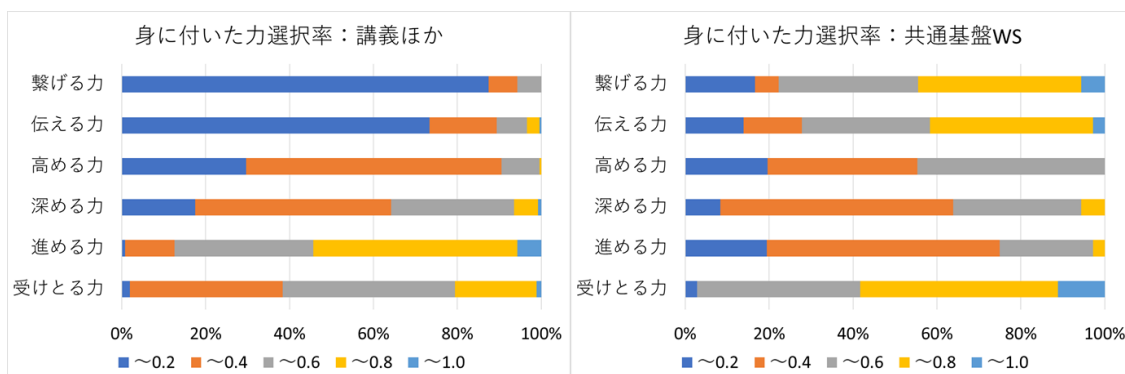
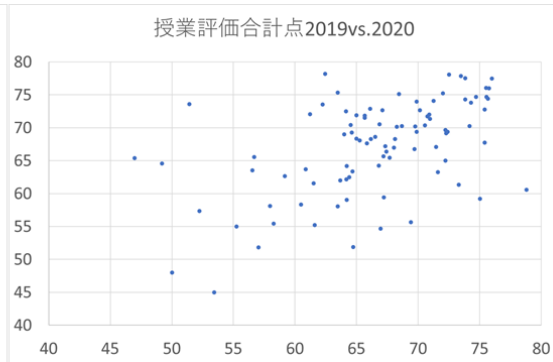
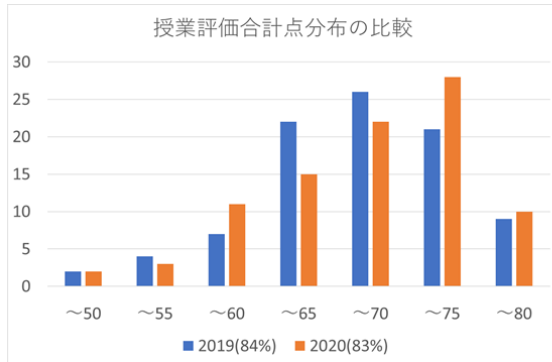


図4 オンライン授業で身に付いた力6項目の選択率

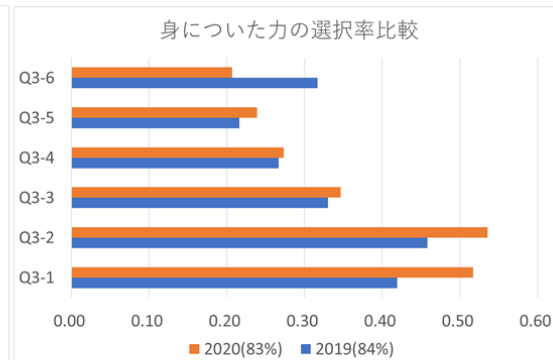
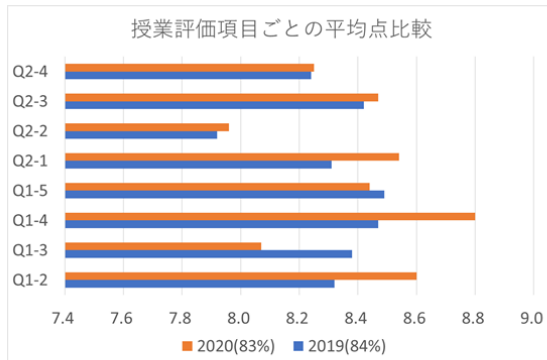
授業評価アンケート 2020 前学期の追加解析結果

- ・オンライン授業の影響を確認するため、2019 年度前学期と同一科目、同一担当常勤教員の授業 91 件についての結果を整理し、比較してみた。
- ・先に記した通り、アンケートの実施方法は、2019 年度と 2020 年度で大きく変わっているが、今回の標本とした授業における回答率は、2019 年度が 84%、2020 年度が 83%と、ほとんど差はない。



- ・両年度ではほぼ共通する評価項目8つ（各10点満点）の合計点の分布を比較したグラフ。
- ・2020年度の方が、やや高得点側にシフトしているように見えるが、平均点は2019：66.6、2020：67.1と、大きな差は無い。

- ・横軸に2019年度、縦軸に2020年度の評価点をとって相関を見たグラフ。かなりのばらつきがある。
- ・2つ以上の標本がある教員に着目すると、変化の傾向が概ね類似しており、オンラインへの向き不向きが出ているものと考えられる。

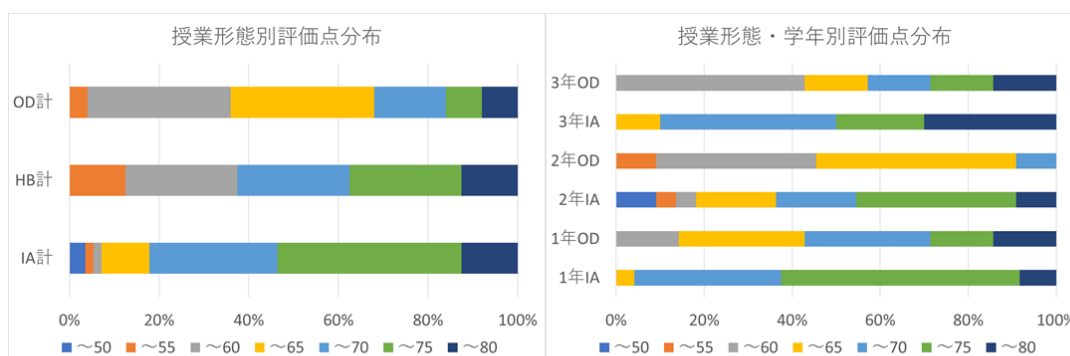


- ・2020年度がはっきり上回っている3つの項目は、資料類を使った説明や指示に関わるもの。オンライン対応でレベルアップしたものと考えられる。
- ・一方で下がっているのは学生の反応確認。

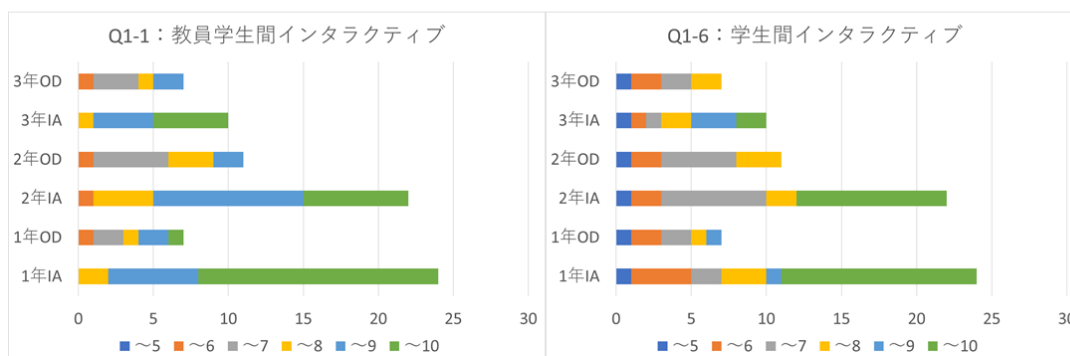
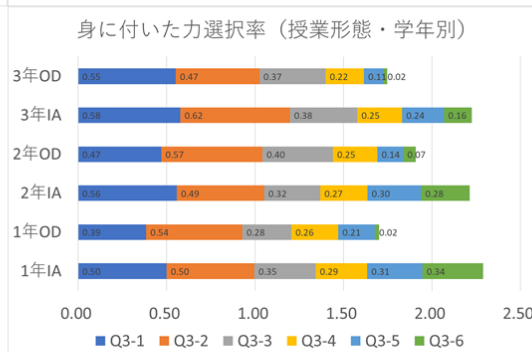
- ・身についた力の選択率で、2020年度がはっきり上回っている2つの項目は情報収集力と知識活用力。一方で下がっているのは協働能力。オンライン授業の特徴が表れていると言える。

	2020	2019
1-1	教員と学生の間の双方向のやり取りが十分におこなわれていますか	学生の主体的な学びや授業への積極的な参加を促す、工夫や雰囲気作りがされていますか
1-2	配布資料、説明動画、教科書などは効果的に使われて、授業理解に役立っていますか	教科書、配布資料、視聴覚機器、板書などは効果的に使われて、授業理解に役立っていますか。
1-3	教員は学生の反応や理解度を確かめつつ授業を進めていますか	教員は学生の反応を確かめつつ授業を進めていますか。
1-4	学習・復習をおこなうための適切な指示や、課題提示がなされていますか	学習・復習をおこなうための適切な指示や、課題提示がなされていますか
1-5	提出した課題やレポート、質問などに対して、適切な説明や指導がおこなわれていますか	提出した課題やレポート、質問などに対して、適切な説明や指導がおこなわれていますか
1-6	学生同士が意見交換したり質問などを共有したりする機会や場がありますか	授業の欠点確認がおこなわれ、その結果がCampus Square上にアップされていますか
2-1	授業の内容は授業ガイダンス等で事前に説明され理解したものと合っていますか	授業の内容は、シラバスの記述や授業ガイダンスでの説明からイメージしたものと合っていますか
2-2	好奇心を刺激したり、意義や必要性を感じさせたりして、学ぶ意欲を高める内容になっていますか	好奇心を刺激したり、意義や必要性を感じさせたりして、学ぶ意欲を高める内容になっていますか
2-3	この授業の到達目標となっている知識や技能を、しっかり学べる内容になっていますか	この授業の到達目標となっている知識や技能を、しっかり学べる内容になっていますか
2-4	この授業を受けてよかったと感じていますか	この授業を受けてよかったと感じていますか
3-1	必要な情報を収集する力	
3-2	学んだ知識や技能を役立てる力	
3-3	興味や関心の範囲を広げる力	
3-4	学びや作業を振り返り改善する力	
3-5	作文やプレゼンテーションなど表現する力	
3-6	他者との対話や協働作業をおこなう力	

オンラインの授業形態による違いについての解析結果



- ・ 同じ91件の授業に対して、6月に実施したオンライン授業アンケートの結果から授業実施形態を確認し、その影響を解析した。IAは同時双方向、ODはオンデマンド、HBは両者の併用。
- ・ 評価点に対する授業形態の影響は非常に大きいことが明らか。授業配当年次別では2年生ODの結果が気になる。
- ・ 一方、身についた力に対する授業形態の影響は、比較的大きいものと小さいものがあり、その結果はリーズナブルといえる。また、授業配当年次による違いも小さい。



科目名	担当教員	学年	形態	履修数	回答数	1-1	1-6	計
運動生理学	野上 佳恵	3	IA	23	22	9.77	8.86	18.63
企業情報マネジメント	牧 紀子	3	IA	28	24	9.58	8.75	18.33
モバイルプログラミング	橋 俊宏	3	IA	30	14	8.93	9.29	18.22
流体力学2	堀毛 達朗	3	IA	63	57	9.82	8.33	18.15
無機化学	木枝 暢夫	1	IA	25	21	9.52	8.33	17.85
市場と経済	平山 勉	3	IA	41	38	8.55	9.08	17.63
電気数学1	水谷 光	1	IA	31	24	10	7.5	17.5
メカトロニクスシステム概論	高橋 宏	2	IA	52	43	8.37	9.07	17.44
電気の物理1	櫻井 勇良	1	IA	31	23	7.83	9.35	17.18
材料力学1	大見 敏仁	2	IA	43	40	9.5	7.5	17
言語表現基礎	内山 清子	1	OD	40	38	9.34	8.16	17.5
スポーツ基礎A (ニュースポーツ)	柳 淳一	1	OD	23	20	8.75	8	16.75
送配電工学1	成田 知巳	3	OD	24	15	8.67	8	16.67
サーバ技術	湯浅 将英	3	OD	32	26	8.46	7.31	15.77
スポーツ発展A	是石 直文	2	OD	17	13	7.69	7.69	15.38
情報とコンピュータ	三川 健太	1	OD	46	43	8.02	6.98	15

- ・ 今回のアンケートで項目変更した問1-1と1-6の、個別評価点分布に対する授業配当年次と授業形態の影響を整理したグラフ。いずれも同時双方向型の授業が高くなることが予想され、その通りの結果となっている。
- ・ 1年次と2年次で評価点が高い授業の多くは共通基盤WSであり、学生間のやり取りに関しては、他の授業との差が大きくなっている。
- ・ 評価点が特に高かった授業を左表にリストアップした。効果的な取り組みがあれば共有したい。